



イノベーション・オブ・ライフ：ハーバード・ビジネススクールを巣立つ君たちへ / クレイトン・M・クリステンセン, ジェームズ・アルワース, カレン・ディロン著；櫻井祐子訳  
翔泳社, 2012.12

本館  
K/159/C58  
神田分館  
/159/C58



## 商学部 教授 手嶋宣之 Nobuyuki Teshima

主要著者のクリステンセン教授は、世界的に有名な企業戦略の研究者である。彼は、企業戦略における成功と失敗の違いを明解な理論に落とし込むことで定評がある。そんな教授が、自身の同級生や教え子の中に不幸な道に進む人がいることに心を痛め、個人の人生における成功と失敗の原因を3部に分けて考察したのが本書である。

幸せな人生にはまず、仕事のやりがいがある仕事につけるのかを考える。企業戦略と同様に個人のキャリア戦略にも、意図的に作った計画（意図的戦略）と予期せぬ偶然の選択（創発的戦略）が存在する。この2つのバランスを意識した柔軟な姿勢がキャリア形成にとって重要となる。

次に、周りの人との関係も人生を大きく左右する。第2部では、家族や友人との幸せな関係を築く方法を考察する。ここでは投資の概念が重要となる。企業でも個人でも地道な投資の効果はずっと先になって現れる。

最後に、人は意外に簡単に罪を犯してしまう。第3部にあるように、企業の不祥事でも個人の犯罪でも、小さなありふれた決定だと思っていたものが、やがて取り返しのつかない大きな問題になる。最初が肝心だ。

クリステンセン教授がストイックな性格の持ち主であることは間違いない。これは教授の篤い信仰心や大病の経験からくるものであろう。そのため、彼の理論は、私たちのような凡人にはついていけないという印象もある。そこはそれ、本書との出会いも創発的戦略の機会と割り切って、自分にやれそうなことから取り入れていけばよいのではないだろうか。

